



Photo: Provided by Mr. Willie N. Sato.

世界の理解と協調を求めて 開く交歓討論会に参加して

「世界理解を目指すRCと地区の研究集会」が12月10日、11日マニラ国際会議場で盛大に開催された。日本から松平理事ご夫妻を始め250有余のロータリアン、フィリピンより300有余名のロータリアン並びにゲストが参加した。

午前中のセレモニーの中でのハイライトは、松平一郎RI理事の講演と、スタンレー・E・マッキャフリーRI会長の特別記念講演であった。

松平理事は、極めて行動力と説得力のあるスタンレー会長を称えた後、「ロータリーにとって大切なことは言語、宗教、習慣を乗り越えて相互に理解し合うことである。地域交流姉妹クラブの交流により小さな火から大きな火にひろがり、一層両国の親善と、ひいては世界平和に貢献されることを希うものである」という要旨の講演をされた。

スタンレー会長からは、「かつて日本と比国は戦争といういまわしい出来事があったが、ロータリーを通して過去を反省し討論会における成果を期待する。飢餓追放と教育、その他多方面に亘っての日本の方々のフィリピンへのご支援を心から感謝する。そして日本とフィリピンのロータリアンが共に手を握り協力して下さることを心からお祈りする。」旨の挨拶があった。

ここで現職のガバナー一人一人にスタン会長より「世界の平和を求めるための賞」が手渡さ

第259地区 バストガバナー 伊藤 茂 (相模原中) された。

2日目は12月11日午前9時30分より開催された。PDGフェリックス・リムカオコ二世の司会の下でまずお祈りが行われ、次いで4人の講師による基調スピーチが行われた。

最初の「健康についての世界社会奉仕」はパトリシオタンPDGによってフィリピンにおける健康問題が、スライドを使って解説された。

次いで「餓死追放についての世界社会奉仕」がサンビオサンストPDGにより発表された。特に食糧生産、水産関係の開発に対する日比両国のRCの支援、協力によって着々とその成果をあげていることが述べられた。

次いで私は「人間性に基づく世界社会奉仕」について、世界社会奉仕の本質を「卵が孵化するのは、親鳥の愛情の熱と、卵自身の持つ可能性の両方の力によるものである。親鳥が直接暖めるのではなく、卵の可能性を刺激するために暖めるのと同様に、相手クラブの自らの意欲を刺激するような支援でなければならない。」と述べた。

最後に262地区加藤恒七PDGの「青少年交換」について、「実践しなければ意味がない。さあ明日からお互いに交換しよう、」との趣旨のお話がなされた。

午後からは各部門別の会議が開催され、夜はホームホスピタリティーでマニラでの楽しい名残りを惜しみつつ、再会を約しお別れをした。